

私たちが新しくお墓を建てますと墓前で「建碑式」というお勤めをいたします。いつだったかその建碑式のお勤めとさせていただきました際に、「この度お墓を建てて私の行き先が決まりましたのでこれで安心してました。」とおっしゃった方がおられました。確かにお墓はご遺骨の行き先ではありませんけれども、私たちの本当の命の行き先ではありません。

言うまでもなく私たちの本当の命の行き先はお浄土ではありませんが、行き先といつてもそれは死んだ先の何か遠くを眺めているような世界ではなく、今ここに開かれて、今のこの私の真のよりどころとさせていただけられるものでなければならぬのではないのでしょうか。

たとえば浅原才市さんの詩に

才市やどこにおる

浄土貫うて娑婆に居る

これがよろこびなむあみだぶつ

というものがあり、これはそのころをうまく表しているのではないかと思います。

つまり自分自身が今どこにいるのかという問いに、私は娑婆世界にいなからお浄土をいただいている、そしてそのことが喜びであるのだといって南無阿弥陀仏とお念仏で結んでおられます。

思えば人生においては、時として思わぬ災難に遭遇することもありますし、また私たちがいかに慎ましく生きようとしても悩み苦しみは多く尽きません。親鸞聖人はそうした人間の悩み苦しみ、心煩わすものは臨終まで消えることはないとおっしゃっておられます。しかし私たちの人生におけるどのような出来事も「ご縁」としていただける世界を持つことはできると、その生涯をかけてお示しく下さいました。お正信偈にある「煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり」とはそういったことでもあります。

悩み苦しみのこの娑婆世界にいなから、お念仏を通じてお浄土という真実の世界の仲間に加えさせていただける喜びを、おりにふれて聞き、心に感じ取ることが私たちにとって大切なことでありましょう。

